武雄市議会だより
栄八通信
（Web版始めました）
栄八通信　検索
栄八通信で検索
第６４号

武雄市議会議員
宮本栄八
TEL・FAX２３－０７５０
携帯090－5083－0793

H28年1④7 10月発行

H28年度予算　251億円の概要

武雄市で、最高の予算額となった。H27年度は227億円で、24億円程度増加している。

その源資は、市債の借り入れ約7億円、基金からの繰り入れ、16億円に、ふるさと納税約1億円などが増加のようだ。

これらの増加分の使い道としては、新庁舎建設や、競輪場改修の為の資金の繰り出し（10年で返却）が主なもの。

【歳出予算の主なもの】

増加分以外の新規事業や主な事業を紹介すると、

○武雄市制10周年事業370万円（落語会・武雄温泉リレーマラソン・NHKのど自慢がある。落語の月亭方正さんの父は、市内の橘町出身という話）

○新工業団地の調査費430万円（コンサルタントに、発注して、適地を調査するとの話）

○ふるさと納税返礼品1.2億円（市内の物産の購入だが、半額返礼なので、寄付収入は2.4億円か。）

○ひとり親家庭空家改修200万円（ひとり親は収入が少なく、貧困になりやすいとの考えから支援する。ただ内容は、ひとり親が、空家に住む場合に、その大家さんに、改修費を1件20万円を上限に補助するもの。市は、ひとり親支援と空家の2つの課題を同時に解決するとの話だが、私の考えでは、かえって使いづらいと考えるが、果たして結果は？）

○健康ポイント事業196万円（健康寿命を延ばす為に、市民に運動してもらうための施策。4月に市に登録して、手帳をもらい5月～9月までに、自分の1日の目標を決めて運動すれば、ポイントがたまり、商品などに交換できる。対象は、20歳以上の市民。年2回。）

○主要道路整備　3億7千万円

・「小楠―永島線」の整備で、場所は、新武雄病院横から、南へ元農道だった所を拡幅整備。花島まで

・「北方―新橋線」は、眼鏡市場の交差点より、北方中央線までを拡幅

・「梶原―楠町線」は、東部地区のアクロスプラザの北側で、トライアルなどが移転する話も聞くが、それへの対応の為の整備かも。

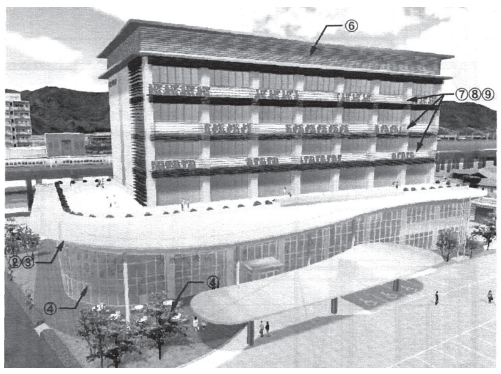
○学校の整備

・北方小学校大規模改造3.8億円（管理棟・教室棟を改造する）

・山内西小学校体育館改造2.1億円（鉄骨以外はすべて更新する）

・武雄中学校体育館解体1.1億円

・武雄北中学校舎設計約3千万円



H30年3月完成予定　庁舎の特徴は波形の３Ｆテラス

新競輪場
（コンパクト化やナイター対応）

H28年度予算に反対した理由
こども図書館の進め方　駐車場

3月議会で、H28年度予算に反対した。時々言われるのは、「新年度予算が通らないと何もできん、それでも反対か！」との非難だが私が知る限り、武雄市は、これまで、執行部の出した予算や条例は一度も否決された事はない。

だから、私は、市民の代理人としての市議として、納得の行かない項目については、面倒でも、できるだけ反対し、意思を伝え、将来的な改善に繋げたいと思う。

今回の反対の理由は、こども図書館の件で、こども図書館自体には反対ではないが、事業の進め方いわゆる手法については納得できない。12月議会では、急に子育てセンターから、こども図書館に名称が変わり、また内容一つも決まらない中で、用地の地形調査の予算が計上されていた。その時は、一候補地として、どういう地形になっているのか知りたいとの説明で少し変と思ったが賛成した。

しかし、今回は、基本設計・実施設計費、約3600万円があり、工事入札に入れる状況。

一方、内容は、大まかな全体方針を基本計画で示しただけで、具体的には、何も分からない状況。

また、教育大綱で『組む』と民間活力の教育への導入をかかげるが、その相手もツタヤなのか、誰なのかも、示されていない。また財政計画も、設計費は、合併特例債を使うが、本体工事が何億円になるのかや財源も示されていない。

それと、一番の理由は、現図書館と隣接なので駐車場不足への対策で、市は、図書館駐車場と梅林駐車場の間の、歩道や歌碑、桜の木の所をつぶして、駐車台数を増す話だが、もっとこの際本格的に駐車場の拡大を計画すべき事。

大野住宅改築と市営住宅改築計画

大野住宅は、山内町のAコープ住吉の前にあり、16戸を、H29年度に解体→建築→入居まで行う。

私としては、H28年度でなく、H29年度と言うのが、行政のスピード感としてどうなのかとも思う。

具体的には、平家を2階建て2棟に集約し、駐車場も1戸2台程度を確保する予定らしい。

私の心配していた、4階建計画は地元の意見もあり2階になり安堵。

【市営住宅長寿命計画】

全国的に国から自治体に計画作りが求められている。本来は、全住宅の改良計画を作るのだが、武雄市は、H27年からH31年の5年間を示す。しかし、大野後は不明だった。今議会、H30年から、北方町の小原・高野住宅の統合移転改築。その後、山内町の唐原（とうわら）住宅改築など、耐用年数の古いものからの建替えを部長が明言。

新幹線問題の次を考える　快速・終電に◎ 新提案Wリレー方式

やはり、リレー方式で決着した。

一方、武雄市にとっては、次は武雄温泉駅の対面乗り換えや、線路の複線化がどうなるのか？などが気になる所である。

■対面乗換■

要は、都会で、特急から各駅停車に同一ホームで乗り換える様なもので難しい話しではない。

ただ、国交省の案や、九州新幹線の時の新八代でのリレーでは、駅の手前で、在来線も、新幹線も、上下線がY字型に一本化され単線の形で、それが対面し、乗り換え後、逆方向に折り返し運転する型。

もう少し説明すれば、新八代は在来線と新幹線が十文字型に交差し、新鳥栖も同じ、武雄は平行。

■複線化事業■

新聞報道によれば、複線化は急がなくても対応できるとの事。

確かに、先に書いた様に、武雄温泉駅に上下一本化して入るならすべて複線化はいらないが、これまで在来線の単線での列車待ち合わせや減速など時間の無駄を感じた者としては、早期の複線化を望む。

また、複線化は、高橋駅―大町間から始めるとの事だが、これは高橋駅を出て、すぐ上下一本化がされるので、高橋駅が複線の起点になる。フリーゲージが通る時になれば、高橋駅から、武雄温泉駅間に新たに、線路幅を変えるアプローチ線が作られる事となる。

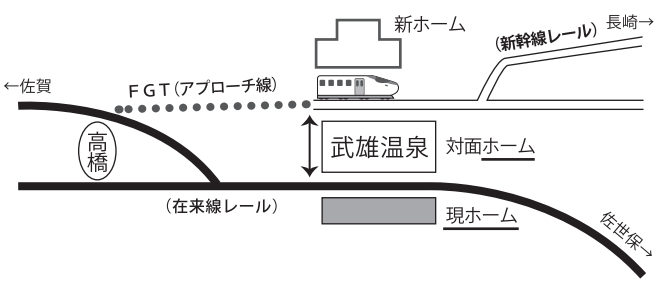
【私の今後の提案】前回は、複線化で、肥前山口のもつ、快速発着や終電を武雄に誘致を提案した。

今議会、市も取り組むとの答弁。

今回の提案は、「Wリレー方式」で、私が勝手に名を付けたが、内容は、長崎からフルで来て、武雄で特急にリレーするが、その後、新鳥栖で、九州新幹線にリレーする。「Wリレー」、要は、長崎ルートと鹿児島ルートをリレーする案。

もともとフリーゲージは、関西に早く行けるとの目的、そうなれば、現在、関西に行く「みずほ」などの九州新幹線にいかに早く乗り換えるかで、同一の効果が見込める。

フリーゲージでは速度が遅いので、山陽新幹線乗り入れでのダイヤの本数が見込めない状況。



市職員の給料アップと議員の給料アップ

人事院の勧告の関係か、佐賀県が給与表を改定し、それに準じている市の給与も改定し、約0.3％で金額としては、月割2、500円程度が若手職員を重点的にアップされる、部長級などは変化ない。

これも、アベノミクスの所得を上げての景気対策かもしれない。

民間と違って、実施は、H27年4月に遡って支給される。

一方、議員については、国家公務員の指定職（特別職）の給与改定に準じ、ボーナスの6月分は変らず、12月分が0.05％アップする。一般議員で、2万3570円になる。との事、実施はH27年12月に遡っての支給となる。

前市長の終わりに、5万円上がったのは、市の報酬審議会からの値上げで答申だったが両方とも議員が上げるよう求めたものではない事は伝えたい。○私自身は、日給制でも良いと思う。

北方のバイパス連結道「高野南北線」整備で決着

私が以前から提案していた、H29年度武雄バイパスの延伸で、北方中央線と直結するが、現在国道34号線は、中央線に直進せず、北上して、眼鏡市場の交差点で、逆Z型に通行させる計画。

しかし、その交差点は、多久方面からの直進車が増加し、多くの車が右折できずに、信号機2回待ちで、何の為のバイパス延伸なのかとなるのではと心配した。

そこで、北方中央線から、国道34号線への「連結道」の整備を操り返し、提案要望して来た。

市は、それを、北方バイパスの着工で、国に整備してもらおうと急に動き出した事は、前回の通信でも伝えたと思う。それ自体は良いと思うが、なにせ後2年しかなく、今やっているのは、武雄バイパスの残工事で、この先は、北方バイパス新規着工で、大町・江北や国の承認が必要で時間が必要。

そこで前回、まず市で連結道を作る、「二階段整理」を提案して市がどうするか見ていた。

今議会、北方中央開発地区に、2本の市道を認定して整備する計画が出されていた。1本は、「高野東西線」で、これは前回ダイレックス裏の住宅開発地に市道を整備するとしていたが、北方支所西の「志久線」の枝分かれ線との位置づけから今回、独立させて、約580mを約6m幅で整備する。ただし、東西線と言うものの、終点側100mは、中央線にタッチの為南へ下る。

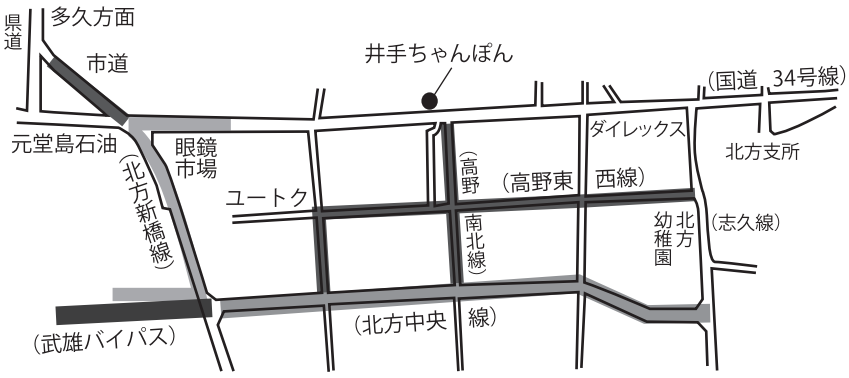
そして、もう一本の「高野南北線」200mが、私の望みつづけた、北方中央線と国道34号線をつなぐ「連結道」に代わるもので、たぶん地元の方の協力があって認定にこぎつけたものと感謝したい。

私は、できるだけ、中央線を利用し、カーブする前の所でダイレックス近くに出たがいいと思ったが、今回市の提案する「高野南北線は、地区のまん中にあり地点は、井手ちゃんぽん店の前あたりからまっすぐ北方中央線に続く。

私の考えは、車を逃がす発想だったが、これは、この道を、地区開発の、中心道としての位置づけで整備する形になってベストな案かも。グレードは未定との話だが、200m程度なので、広く歩道付き整備で地区の人口増加に継がる事を期待。

【県道と市道の交換】

一方、多久からの県道は、元の堂島石油へ直進だったが、西杵から、眼鏡市場方面への市道と交換へ



H30年国保の県一本化

まだ安心できない現実

今議会、県の基金より、約4億円を借り入れ国保会計に入れる補正があった。一方、以前から伝えている様に、H30年度には、国保が県に広域化される。

その時には、各自治体の国保特別会計の赤字は、0に解消しなければならない。

武雄市は、H27年度は所得割り医療費分を10%に値上げするなどし、また、一般会計から、1億円を入れ、さらに、先の4億円を入れた後の、赤字残額が、約4億円。

H28～29の赤字見込みの約2億7千万円を加えると、県一本化までには、6億7千万円を一般会計から入れる必要がある。

ただ、県から無利子で借りた、4億円は、約8千万円ずつ5年返済なので、結局、市は今後107億円の負担することとなる。

【広域化の具体的内容】

今議会の福祉委員会で、H30年広域化以降も、市の国保の赤字は1億円程度出て、それは市で手当てしなければならないとの説明を受け、ガク然とした。

広域化で、H30年度以降は、県が責任をもってやると思って、ほっとしていたのでショックは大きい。

具体的には、各自治体に国保係は存続し、事務もするとの事。

また、市独自税率で集めた、収入から、医療費などの差額の赤字は各自治体の負担となるしくみ。

それなら、何も今と変らずだまされたと思い、県の担当に聞くと県から、提示された、収納率や税額を徴収した場合は、基本自治体の負担は無いとの話で、後は市が提示額を議会で議決するか、一般会計から出すか？の判断。同様に県議会の判断も加わる。

松原交差点改良

20年前の課題解決へ

H28年度中に、松原交差点の改良が済み、信号機も設置見透し。

一ヶ所の信号機の事だが、私の議員生活の中では大変重要な案件。

それは、武雄市の一大事業の鉄道高架事業と区画整理事業と関係する。

約30年前、市は、鉄道高架事業を国から採択を受けたが、その後その効果を出す為に、同時に市に区画整理事業を求めて来た。

そこで、身のたけに合わない事業はできないと長く頓挫していた。

そのうちに、バイパスや南部の開発が進み、必要性も減少した。

しかし、商店は、移動しても、武雄の特徴である温泉の場所は変らないので、観光客が困っている松原踏切りの拡幅と松原交差点の信号機の設置だけはやる方向に。

しかし、踏切の拡幅は、高架事業が採択されているので、上位計画と違う改良は認められず。松原交差点信号も、踏切りと近いので点滅信号しか付けられない状況。（その後のいきさつは紙面の都合上、別の機会に伝えるが、）結局は高架・区画縮少案を実施することになり、多くの人が知恵をしぼって信号機設置を獲得したものです。

一方、交差点改良は、県の杵藤土木事務所で行われています。

ただ、ここ1～2年は、工事が進んでいませんでした。前任者は、武雄出身の村山氏で事業の進渉について何度も意見交換しました。

問題は、温泉方面から市役所方面への水路が交差点を超える時、NTT光回線のボックスがあり、移動に多額の費用がいる問題。私もう回路の提案などしたが、結局はボックスの上を通す事が可能と分かりH28年度の完成となった。

議会粉糾　その1

武雄保育所用地問題

保育所の民営化の授択状件は用地を市が無償で貸し付けるルール。

今回は、市が用地を購入して、貸し付けないで、保育所が直接購入造成した費用を補助した。

その理由は、土地の売り主さんは、土地購入者と建設者が違うと、譲渡所得税がかかる事や、公共工事で造成するより民間で造成工事をした方がコストが安く、その差は、約5000万円との話。一方、保育園を止めた場合は返却する事や土地を担保に入れないなど、契約を交しているので、市に得はあっても損はない説明で私も以前賛成していた。

今議会、他議員の一般質問で、今までのルールと変って、不公平ではないかとの追求に、市長は保育園側と話し合うの答弁だが、市の説明を信じて賛成した我々はどうなるのか？

議会の委員会

4→3に

一般市民の方には、あまり興味ないかと思いますが、今4月より市議会の常任委員会が、これまでの、4委員会から、3委員会に変更されます。理由は、主に、福祉委員会が所管していた、こども部が、小松市長の就任で、教育委員会に移動し、案件審議の量のバランスが悪くなっていました。

一方、次の選挙で議員定数が24名から、20名に減少するので、それへの対応準備の意味もあって、2年ごとの委員会の改選に合わせて実施された。（左表のとおり）

一方私の、3委会制への期待は、1委員会は、6名は必要で、3委員会×6名で、今後、議員を当面18名までは、削減できる事。

1	総務文教
2	福祉
3	産業経済
4	建設

1	総務
2	福祉文教
3	産業建設

議会粉糾　その2

市長の政治献金問題

他議員が、小松市長への一般質問で、H26年自民党第2支部からこまつ後援会に200万円の献金がされているのが、法的に問題はないのか？の主旨の質問と思うが、やり取り中に騒然となった。

市長は、法に順い、適切に処理されている。　主旨の答弁で何も問題なかった。

今回の事で、少し勉強をしたが、政治家への個人からの寄付は150万円までで、自民党支部などからは、1000万円まで良いとの事。また自民党は、武雄支部と、県会議員が代表を務める、第1支部（石丸氏）第2支部（稲富氏）の3支部もある事を初めて知った。一方、朝日新聞やネットには、自民第2支部から、選挙前に、ひわたし後援会に750万円、こまつ後援会に200万円が献金されている報道も。一方近年、全国的には、支部を介する迂回献金が問題化している。

敬老祝金の対象

85・95はずれる

9月の市内各町の敬老会で、80・85・90・95・100歳の方に、市より敬老祝金を出している。

私は、福祉委員会だが、市は、今後の高齢者の急増や福祉費用の増大の為に、各年齢対象者の支給金額の引き下げを提案し、県内市の支給一覧表を提出して来た。

それを見ると、多くの市が、対象者年齢が、2～3段階になっていて、武雄市以外で、唯一5段階の鳥栖市も、H28年の見直しに入っているとの状況。　そこで、私は、他市並の3段階への変更を主張、対象予定者には申し訳ないが、85・95歳への支給廃止につながり、責任の一端は私にもある。

ただ、合併時費用900万円が現在1500万円になっていた。今回、750万円削減になるが今後は現金でなく祝う方法も考える必要もあるのではと思う。